

「ただいまー」

「おかえりなさい！！ おうちでゆっくりしてね」

「ああ、良い子にしてたか？」

そう言ってゆっくり霊夢の頭を撫でてやる、体を振って喜ぶゆっくり、

「れいむいいこにしてたよ！！ おひるもちゃんとたべたよ！！！」

テーブルに視線を移すと作っておいたおむすびは全部平らげてくれたようだ。

少しご飯粒がこぼれているのは仕方ない、ご愛嬌だろ。

「よしよし、いいこだなあ霊夢は、今、夕飯作ってやるからなあ」

「ゆゆ！！ いそがなくてももいいよ！！ きがえておふるにはいってゆくりしてからでもいいよ！！！」

嬉しいこと言ってくれるじゃないか、一緒に暮らすようになってから随分と語彙が増えたな。

でも……。

「大丈夫さ、俺もおなか減ってるんだよ、服を着替えたら直ぐに作ってやるからな」

「！！！！ うん！！ ゆっくりつくってね！！ ゆっくりまってるね！！！」

はは、本当はお腹空いてたんじゃないか、我慢しちゃってかわいいねえ。

急いでジャージに着替えて夕飯を作る。

今日は中華炒めと味噌汁、あとは佃煮に漬物。

ほかほかのご飯の上にとろみの付いた中華炒めを載せれば中華丼の出来上がり。

特大サイズの餌入れに載せてテーブルに出す。

「おーい霊夢、ご飯が出来たぞー！」

寝室のベッドで遊んでいた霊夢が勢いよく飛び出してきた。

目の前の山盛りの中華丼を見て目を輝かせている。

「ゆ～！！ おいしそう、こんなにいっぱい食べてもいいの？」

「心配すんな、パカスカ食らうおまえを養うだけの金はあるから」

「うん！！ ゆっくりたべるね！！！」

そう言って勢いよく食らい付く、おいおいゆっくりたべるんじゃないのかよ……。

「むっしゃむっしゃ おいしいよおにーさん！ とってもおいしいよ！！！」

そうかい、それは良かったな。

「おいおい、急いで食うから口の周りをご飯だらけだぞ」

「ゆ？ほんとだ！！ んべー……」

舌を伸ばして器用にとつくなあ、……って、そうじゃない。

「お行儀が悪い」

ぺちん

「ゆ！！」

「ほら、口拭いてやるからこっち向け」

とろみと涎でベッドベッドになった顔を丁寧拭いてやる。

「ゆっ！ ゆ～くすすぐたい」

「がまんしろや、……ほら拭き終わったぞ、食べ物は逃げていかないんだからゆっくり食え！」

「むしゃ、……べも、むしゃ、おにいじさんの……むしゃ……」

「食うかしゃべるかどっちかにしろ……」

「おにいさんの作ったごひ……」

「本当にしゃべるな、普通は食ってから喋るだろ？！」

ちよっ、ご飯粒が顔に、布巾布巾……ってこれも涎まみれだ。

「ゆゆ おにーさんおもしろい」

「もともと原因はお前だ」

ぺちん

「ゆ！」

「おにいさんが、しゃべるかたべるかどっちかにしろっていったんだよ」

顔洗ってきて開口一番それかよ。

てか、もう食い終わってるし。

「はいはい、俺が悪かったよ、それで、お前さっきなんて言おうと思ってたんだ」

「そのまえに、おかわりちょーだい、おにさんがわるかったからばつだよ」

「わかった、ちょっと待ってな」

くそ、誰だよ悪いことをしたら罰があるって教えた奴？

閻魔か、……いや俺だ、何教えてるんだ俺。

「はいはい、おかわりな！ 残すなよ！！！」

「おにーさん、これちょっとおおいよ！」

「量を指定しなかったのはお前が悪い、よって罰だ」

ささやかな仕返し。

ああ、でもこの食いつぶりだと丁度良い量だったかもな。

「おい！ それ食う前に話すこと有ったんじゃないのか？」

「ゆ！！！！」

しまった、また数分前の惨劇が……。

「んーごっくん！！ ちゃんとたべてからはなすよ！！！」

……、おお！！ 偉いぞ霊夢。

「偉いぞ霊夢、それで何が言いたかったんだ？」

「おにーさんのつくりょーりがおいしいからどどんたべちゃうんだよ！！ おにいさんのりょーりがわるいんだよ、だからばつをうけてね！！！」

そうか、うまいかあ。

伊達に仕事先で鍋振ってる訳じゃないからな。

「それはいいとして、罰ってなんだよ？」

最高の夢だった。

.....

「朝だ、起きろ」

ぺちん

「ゆ！！。おにーさん！ れいむはおねしょしてないよ！！」

「分かってる、これは俺が悪い、お詫びにホットケーキを作ってやろう」

「ゆ ゆっくりたべよ！！ おにいさんのほっとけーきだいすき！！」

そう言って嬉しそうにゆっくりに、蜂蜜たっぷりのホットケーキを出してやった。

ああ、朝一緒に飯を食うのが博麗.....。

「それじゃ、言ってくるから大人しくしてろよ。昼飯はテーブルの上な。今日はサンドイッチだぞ」

「ゆ！ わかってるよ。おにーさんも気をつけて行ってらっしゃい」

「ああ、行って来ます。それじゃあな！」

玄関に鍵をかけて家を出る。

最近はずしくなくなった洋風の家に興住宅地。

ちらほらとゆっくりを買っている家も結構多い。

独身暮らしだった俺にとって。

最近の行って来ますと言ってたまいまと言えるゆっくりとの生活もなかなか楽しい。

でも、どうせ二人で暮らすなら博麗.....。

「さてと、今日はケーキでも買って帰りますか！」

そう言って職場へと俺は足を進めた。

Fin

- ゆっくりできたよ！ありがとね！！ -- ゆっくり名無し (2009-03-27 02:07:57)
- 読んでいるだけでゆっくりさせられます
-- 名無しさん (2009-03-31 01:56:16)
- すごくゆっくりしてるね！ -- 名無しさん (2010-11-27 13:13:52)

名前:	<input type="text"/>
コメント:	<input type="text"/>

投稿